開発協議指導細則第10条（みどり等）の緑化面積算出の注意点

開発協議指導細則第10条（みどり等）の緑化施設の計画の際、次の点に注意して行ってください。

1 樹木について

- (1) 最低確保しなければならない緑化面積のうちの1/3は、樹木の方法としてください。
- (2) 樹木は、中木と低木など最低2種類以上組み合わせたものとしてください。
- (3) 樹木の面積は、第4項の表に定めるみなし樹冠の水平投影面積を緑化面積としているため、建築物や敷地外に出る部分やみなし樹冠の重複する部分は、緑化面積として計上できません。計画にあたっては、樹木の高さに応じ、下表の半径でもってみなし樹冠の円を配置図に示してください。

みなし樹冠等が重なる場合は、みなし樹冠面積の合計から重複部分面積を除くこととします。

	樹木の高さ (緑化工事完了時)	みなし樹冠の半径	みなし樹冠の面積
高高木	6m以上	3.0m	30 m ²
高木	4m以上	2.1m	14 m ²
中高木	2.5m以上 4m未満	1.6m	8 m ²
中木	1m以上 2.5m未満	1.1m	4 m ²
低木	1m未満	0.56m	1 m ²

- (4) 第3項に規定する「ブロック、縁石等で区画された土壌に多種類の樹木の苗木を密植して行うもの」とは、宮脇式植樹法に代表される植樹法を指します。

2 芝その他の地被植物について

- (1) 芝その他の地被植物の場合、最低面積の2/3までは、この方法のみでも可です。
- (2) 緑化補助資材等を使用した特殊工法による「駐車場緑化」は、緑化補助資材部分を除いた緑化部分を緑化面積とします。ただし、この方法による場合は、最低面積の1/3までしか換算できません。

なお、緑化率の確認のため、緑化補助資材のカタログなど提出してください。

- (3) 地被の株数は、36株/m²を原則としますが、株数が少なくても密植が期待される種類は16株/m²でも良いこととします（セダム、タマリユウ、ジャノヒゲは36株/m²）。
- (4) 芝生上に樹木を植栽した場合、それぞれの面積の合計からみなし樹冠と重なった部分を除いてください。